

北広島市総合教育会議議事録

会議名	平成29年 第1回 北広島市総合教育会議
日時	平成29年7月31日（火） 15時30分～16時30分
場所	北広島市役所3階D会議室
構成員	上野正三（北広島市長） 吉田孝志（北広島市教育委員会教育長） 松本 懿（北広島市教育委員会委員） 大山秀之（北広島市教育委員会委員） 石上浩子（北広島市教育委員会委員） 成田 郁久美（北広島市教育委員会委員）
事務局	川村裕樹（企画財政部長） 橋本征紀（企画財政部企画課長） 柴清文（企画財政部企画課主査） 佐々木 貴啓（企画財政部企画課主任） 水口 真（教育部長） 佐藤直己（教育部次長） 富田英禎（教育部小中一貫教育課長） 花田秀樹（教育部教育総務課主査） 吉本早貴（教育部教育総務課主事）
説明員	遠山昌志（大曲東小学校教諭） 阿部恵子（西部中学校教諭）
議事日程	1 開会 2 協議・調整事項 （1）小中一貫教育推進事業について 3 その他 4 閉会

◎日程第1 開会

上野市長

おはようございます。開会前にお諮りいたします。

総合教育会議運営に関する要綱第5条で、必要がある場合については、関係者または学識経験を有する方から意見を伺うことができることになっております。本日は小中一貫教育推進事業について協議事項となっておりますが、そのように進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

上野市長

それでは、ただいまから平成29年第1回教育総合会議を開催いたします。

本日の協議・調整事項につきましては、小中一貫教育の推進事業について意見交換を行ってまいりたいと考えております。

事務局から説明をお願いします。

◎日程第2 協議・調整事項

富田課長

7月12日から14日まで視察研修に行っていましたので、その報告をもとに議論の題材を提供させていただきます。

視察先は、大阪府箕面市と吹田市、いわゆる先進地域に当たるところです。訪問したのは、施設一体型の小中一貫校である箕面市立彩都の丘学園と、2小1中による施設分離型小中一貫校である吹田市立千里みらい夢学園であります。参加者は、小中一貫教育推進会議の構成員であります市内各中学校区の教諭及び保護者と北広島市教育委員会事務局職員となっております。

学校や教育委員会の取組を参考にするとともに、中学校区等においては今回の視察内容について、先週各中学校区で開催している小中合同研修会で報告をいただいているところであります。

まず、箕面市立彩都の丘学園について説明させていただきます。

ニュータウンの新設に伴いまして、平成23年4月に開校した新しい学校で、小学校と中学校が一つの校舎に入った施設一体型小中一貫校です。開校当時の児童生徒数は71人でしたが、急激に増加し現在の児童生徒は938人、平成34年度には1,800人になると予測されております。後ほど説明いたしますが、4-3-2制を取っております。

教育目標と9年間の目指す子ども像は、画面のとおりでございますが、右側にあります写真は、教室の前の廊下に貼ってありました算数で学習する内容を領域別に体系化してあるものです。これが子どもの前に、見えるところに貼ってあるということです。

先ほど、4-3-2制というお話をしましたが、主に子どもの成長に合わせて9年間で前期4年、中期3年、後期2年に区分しています。職員室の教職員の机も、この区分に分かれて配置されておりました。小学校5年生から一部教科担任

制を導入しております。

特徴的な取組としましては、小学校1年生から英語教育を実施しております。後ほど時間割の調整でもお話いたしますが、外国語活動の15分モジュール授業を実施しています。また、スカイプという無料通話のアプリケーションがあるのですが、そちらを使用してニュージーランドの学校と交流をしております。学年集会のほか、前期1年生から4年生の集会、中期5年生から7年生の集会を開いています。

また、児童会、生徒会に当たる学園委員会は、5年生以上の学年で組織をしています。読書にも力を入れておりまして、学校図書館を利用した国語の授業での読書の時間や、朝読書の時間を設けております。図書司書は市内全校に配置されています。

小中一貫クラスに特化した教職育の加配というのはないのですが、少人数習熟度別授業を算数、数学で行っており、ここに加配を受けています。また、研究主任、生徒指導主事を配置し、体制を整備していますが、授業を減らして業務に専念できるよう、市の加配で代替の時間講師を配置しています。

教職員等は全校で77人ととても大きな学校のため、校内研究通信を発行し、意識の統一を図っています。また、開発中のニュータウンのため、地域の学校協力体制を学校が共同で整備しています。これは、主に副校長の業務であるそうです。なお、PTAは学園で一つとなっています。

一体型の小中一貫校のため、小学校の45分授業と中学校の50分授業が同時に行われています。教職員等の乗り入れ等もありますので、1時間目、3時間目、5時間目の開始をそろえて、そこでチャイムを鳴らしています。また、5時間目を合わせることを兼ねて、小学校の昼休み後に外国語活動、英語の15分のモジュール授業を入れています。

次に、乗り入れ授業・協力体制ですが、5年、6年の一部教科担任制についてはご覧の教科で行っており、このうち四角で囲った教科については中学校の乗り入れにより行っています。また、小中合同での教科研究も行っております。小中学校の兼務発令ですが、全員に対して行っております。なお、箕面市内の分離型一貫校では、必要に応じて発令しているとのことでした。中学校教諭の負担の軽減のためということで、小学校教諭にも部活動の顧問を持たせています。

それでは、成果について説明いたします。

箕面市立彩都の丘学園は、設置時から一体型の小中一貫校のため、学校内での変容が小中一貫教育そのものかどうかという考えもありますが、市内全域で学力などの調査を毎年行っており、市内各校と比較すると、自己肯定感の高さ、あるいは学習習慣の定着が挙げられます。掲載の写真は中期、5年生から7年生の自主学習ノートの掲示になっております。

また、小中の段差がほとんどないため、いじめや対人ストレスの少なさが現れており、中学校になってからの不登校は現在ないということでもあります。自分の

考えを発表する機会が与えられていたと思う児童生徒の割合が増加しているということです。

地域との関係ですが、学校が協力しながら地域コミュニティを形成していったため、学校への協力と交流が生まれてきています。なお、学校からの情報発信はお便りのほか、ブログなどで行っています。

さて、課題についてですが、小学生から中学生になったことによるリセット感が少ないということで、中学校になってから気分を変えて頑張るといった感情が損なわれており、イベントは小学校の4年生と中学校の1年生の終わりにそれぞれ、2分の1成人式的なものや立志式という形で行ってありますが、いわゆる小学校の卒業式はないということです。

また、小中一貫教育の取組として、様々なことを行ってきたのですが、この学校の良さを聞いて、この学校を目がけて転居してくる世帯が多く、児童生徒が急増しています。このため、今まではできていた5、6年生の定期テスト及び部活動、全学年合同の遠足などを縮小せざるを得ない状況となっているほか、学校体制、校舎増築、生徒指導などに課題が生じてきています。また、小中一貫教育の研究推進のための資金や、時間的な負担感も生じてきています。

今まで行ってきたことに対して魅力を感じていた保護者に対して、できなくなったことの理解を得るということも課題となってきています。

なお、児童生徒の増加に伴い、現在、校舎の増築をしており、道路の向こう側にグラウンドを整備して、この2学期からは新しいグラウンドを使用するそうです。一体型の小中一貫校だとグラウンドは今まで1面だったため、その割り振りが大変だと話しておりました。学校と新しいグラウンドを連絡橋で接続していますが、車椅子やストレッチャーの子どもがいるために、校舎からはちょうど黒いところがあると思うのですが、これはバリアフリーでグラウンドに行けるようにしてあります。気管挿管や胃ろうなどをして、重い障害のある子どもも同じ学校に通っておりまして、医療的ケアの必要な子どものために看護師を配置しているほか、身体障がいの子どもの通学のために学校送迎用のタクシーを用意しております。

以上が、箕面市の学校の説明でございました。

次に、吹田市立千里みらい夢学園について説明させていただきます。

ここは、桃山台小学校、千里たけみ小学校と竹見台中学校の2小1中による分離型小中一貫校です。見てのとおり、校舎はかなり古いです。これは大阪万博の時期にできたようなものとなっております。

平成15年から1小1中で小中一貫教育をスタートし、その後、平成23年から校区の再編により2小1中による小中一貫教育を実施しております。こちらは5-2-2制を取っています。写真のほうのパネルは、各学校にそれぞれ掲示されているものです。

分離型ですので、学校の位置関係について説明させていただきます。

千里たけみ小学校と竹見台中学校は隣接をしております。桃山台小学校は、中学校まで徒歩で800メートルほど離れていますが、北広島のトリムコースのように車道に出ないで中学校まで移動できるようになっています。

なお、校区の南端、南千里中と書いているあたりのちょっと上くらいですが、ここから中学校まで大体2キロ弱となっています。

小中共通の学園目標と目指す子ども像はご覧のとおりです。学園目標ののぼりや横幕が学校に掲げられておりまして、教室にも掲示がされております。

5-2-2制というお話を先ほどさせていただきましたが、特に小中接続を重視した区分をしています。ここも最近、子どもが増えてきておりまして、教室の確保には非常に苦勞しているということでした。学級数を見ていただければ分かると思います。

特徴的な取組としては、教育課程特例校の指定を受けまして、ここも1年生から英語教育を実施しております。また、ここは後ほど詳しく説明しますが、6年生が金曜日、中学校に登校を行っております。その中で、近隣大学の留学生等を活用した英語Dayというものを行っています。

大阪は、夏に臨海学校というのがありまして、小学生は臨海学校の前に小学校のプールよりも30センチ深い中学校のプールを利用して水泳の授業を行っています。

地域とのつながりですが、毎月の授業参観や建築士等による授業協力、地域の子どもと大人がともに学べる場として、西部中学校の校区でもやっておりますが親子合同の英語検定や漢字検定などを実施しております。

なお、PTAは学校ごとのPTAのほか、学園でも設置しています。

次に、乗り入れ授業と協力体制ですが、小中合同の組織体制を構築しまして、9年間を見通したカリキュラムの研究を行っています。小中教員が共同で指導案を検討しています。乗り入れについては、金曜日登校のときを中心に実施をしています。なお、細かい話になりますが、3校共同の共有フォルダがホームサーバーにあり、例えば先生が小学校にいるときに授業の資料をつくり、中学校に来てから印刷をして教室で配付するといったこともできるようになっています。

さて、取組でも紹介しました金曜日登校について説明させていただきます。

二つの小学校の6年生が、今年度でいきますと年21回、中学校に直接登校して授業を受けています。授業の時間は中学生と同じ50分授業、つまり5分長い状況です。6時間目は、小学校同士の交流や小中合同授業などの時間として活用しています。

小学生は中学校で給食をとりますが、いわゆるデリバリー給食、お弁当給食か、自分で持ってくる弁当、購買でドーナツやパンを買うといった中から選択ができるようになっております。このために、6年生に専用の教室があります。また、下駄箱や、小学校の先生のための職員室の机などが確保されています。

金曜日登校の目的は、小中の円滑な接続、緊密な連携や、中学生にとっては思

いやりの心を育む機会をつくることです。教職員にとっては学力や授業力の向上に向けた取組です。

それでは、成果について説明させていただきます。

円滑な接続を図ったことにより、小学6年生が中学校への見通しが立つようになり、一緒に学ぶほかの小学校の児童と交流できることにより、中学校進学への期待感が増加し、不安が減少しております。また、小学生にとって憧れや模範となるよう中学生も成長しているということです。小中が一貫した指導を充実させ、生徒指導等もスムーズにつながっています。右側の写真は、各教室に掲示されている生活の目標に対する各学年での目標です。9年間を通した規律が見通せるようになっています。

保護者との関係では、9年間を通した協力体制というのが構築されており、学校アンケートや学校からの情報発信により、小中一貫教育の保護者への成果認知度が上昇しております。

さて、課題についてであります。この学校も児童生徒数が今、増加している状況にありまして、それに伴って教室の確保や教員の体制、教員の持ち時間などの課題が生じ、今までの取組を継続することがだんだん難しくなっています。

また、人・もの・金がないと学校の方はおっしゃっておりますが、その中で配置された教員の思いやマンパワーに委ねられておまして、教員の多忙感、負担感が生じているという課題があります。教員が入れ替わることにより、小中一貫教育の意義を継承することも課題となっております。ここは転勤してきたときにプレゼンをして理解してもらう取組をしているようです。

以上、一体型の小中一貫校と分離型の小中一貫校、2校の比較と報告をさせていただきました。このあと議論いただくこととなりますが、今回の視察内容をもとに議論の視点を例示させていただきましたので、議論の一助となれば幸いです。例えば、子どもの変容や校内組織体制のあり方、教育課程と教育活動、学校情報の発信と保護者・地域の理解・協働、教育環境の整備、その他という形でまとめさせていただいております。

さて、今回一緒に視察研修に行っていた先生方から、今回の視察先の所感と自校・自校区での取組について報告していただこうと思いますのでよろしくお願いたします。

まずは、大曲東小学校の遠山先生お願いします。

大曲中学校区のこれまでの取組の様子、今後の方向性、大阪の視察、課題について触れたいと思います。

まず、先日の7月27日に、大曲中学校区の先生方が一堂に会し、小中一貫校教育についての共通理解を図りました。大曲中学校区で重視しているのは、教職員の人的な交流ということです。子どもたちの学力観、指導観、評価観の共通理解を図ることによって、先生方の授業の改善を図ろうということが目的になります。

実際に、2学期になりましたら、教科ごとに先生方がお互いの授業を見学し、交流することになっています。これまでも、小中一貫教育にかかわらず、大曲中学校区については連携を深めてきました。それは、学習指導上の課題であったり、生徒指導上の課題を解決するという目的があったためです。例えば、中学校の先生が中学校式のテストを作成し、それを小学校6年生の子たちが実際に解いてみる。それに向けて、家庭学習期間を設けて、計画を立てて実際、テストに向かっていく。そして、テストをするだけではなくて、そのテストの結果をもとにして中学校の先生が、この勉強が中学校のどういうことに役立つのかということを実際に話してもらう機会なども設定しています。

また、これまでは小学校、中学校で別々に作っていた学習の手引を、9年間の手引きにまとめ、それを保護者の方に配付しました。これによって、小学校1年生の保護者が中学校3年生の授業がどのように進むのか、見えるようになっていきます。

また、そのような活動を通して、様々な学習上の課題があると言ったのですが、小中一貫教育はまさにそういう課題を解決してくれる一つの手段だというふうに考えています。先生方の人的な交流を進めることによってどういうことが起こるかということ、小学校と中学校は同じ義務教育ですが少し差があります。その違いを知ることによって、先生方の質を高めることができると考えています。先生方の質を高めることが何に繋がるかということ、子どもたちのよりよい成長を促していくことに繋がるというふうに思っています。

先日、大阪に視察させていただき、大変勉強になりました。本当に貴重な機会をいただいたと思っています。

ある学校では、外国語活動に大変力を入れている学校がありました。おそらく、その学校の特色であって、その学校が一番に力を入れているところだということがすぐに分かります。恐らく、小中一貫教育という大きな枠ではなく、保護者も地域の方も分かるようなものがあれば、おそらく理解が進むのではないかと考えています。

大曲地区でも、どこに力を入れるのかということが、小中一貫教育を進める上での重要な要素になるのではないかなというふうに考えています。

小中一貫教育を進めていくと、先生方にとっては大変有効であると思っています。保護者や地域の方に見えない部分もあると思います。その部分については、子どもたちがより良い方向へ進む姿を見てもらうことで、おそらく地域の方も理解していただけるのではないかと考えています。

小中一貫教育を進めていく上で、重要な要素としてコーディネーター役の先生が挙げられます。コーディネーター役の先生を配置するとなると、現状の状態であるとコーディネーターの先生の負担は非常に大きなものになると思います。そのことを考慮すると、先生の負担を減らすための時間講師等の配置をぜひお願いしたいと思っています。

また、学校では子どもたちや保護者に対してのアンケートや評価をしています。学校評価というものもあります。小中一貫教育に関しては、どのような評価をすると、その小中一貫教育が有効であるのか、進んでいるのかということが分かる、その手段を充実させるために、市としてもその評価のあり方を充実させていただければというふうに思います。

今後の大曲地区の課題ですが、小中一貫教育では乗り入れ授業ということで、中学校の先生が小学校に来て出前授業をすることがあるのですが、今はただ単に授業するだけでは成果は上がらないと思っています。というのは、教育課程というものがありますので、教育課程のどの部分を今、授業しているのかというのを、授業する先生がきちんと認識して授業していただくことで効果が上がると思っています。

また、小学校、中学校で、教育課程というのがしっかりでき上がっているのですが、これを小中一貫教育で9年間につくり直さなければいけない作業が残っています。

これについては、単純に小学校と中学校の教育課程をあわせるだけでは不都合が生じますので、9年間のカリキュラムをどのようにつくっていくのかというのが今後の大きな課題ではないかと思っています。

私自身、今は大曲東小学校ですが、中学校にいた経験があります。中学校13年、今小学校10年ということで、ちょうど半分くらいいます。小学校に来たときに、小中一貫教育というのがどこかでできればいいなとずっと思ってきました。小学校の先生は中学校のことをもっと知るべきだし、中学校の先生は小学校のことをもっと知るべきだということをずっと思ってきて、たまたま私が今回、小中一貫教育に携わさせていただくことになりまして、大変いい機会を与えていただいたと思っています。小中一貫教育は、間違いなく有効な手段だと思っていますので、今後も一生懸命行っていきたいと思っています。

富田課長

阿部教諭

こういう機会を与えていただきましてどうもありがとうございます。

以上です。

ありがとうございます。

続きまして、西部中学校の阿部先生、お願いいたします。

視察研修に行かせていただいた、率直な感想ですが、西部中学校区で実際に取り組んでいることと変わらず、むしろ西部中学校区で行っている中身のほうが多いのではないかと思います。ただ、非常に参考になることもたくさんありました。

西部中学校区での取組状況ですが、昨年2月から西部中学校区では小中一貫会議をスタートさせました。小中学校の教職員全員が集まって、年2回、4月と11月、去年は2月だったのですが、そこで小中一貫に関する業務や活動内容について、5部門5ブロックに分かれてそれぞれ協議しています。

昨年2月に行われたその小中一貫会議では、各部門で実施案を検討してもらい、

出てきたのが大体16案。今年の4月の一貫会議で、16案を精選して13案に絞りこみ、実際に、その13案について年間を通して取り組んでいるところです。

これらの教育活動は、今回視察した中身のものとかなり同じような内容だったので、同じような課題を抱えながら大阪も進めているのだなということが分かり、私たちの校区でも今後の活動をどう継続していくかということの参考になりました。

今後の西部中学校区の予定は、8月の職員会議で、中間評価を行い、小中学校で小中一貫教育に関する活動の中間反省をして、後期の活動の軌道修正をしながら次年度に向けてさらにスリム化した活動を目指していこうと考えています。次年度の活動計画は11月の一貫会議と、各校の職員会議をうまく連動させながら決定していくことになっています。

1年目なので、試して、うまくいかないことがたくさんあり、検討事項はとても多いです。このような中での課題ですが、西部地区はコミュニティ・スクールが導入された状態からの小中一貫教育なので、コミュニティ・スクールと小中一貫教育がもう既に両輪で進んでおり、始める時は、非常にスムーズでした。

その中での課題ですが、コミュニティ・スクールの活動、各学校独自の活動、既存の小中合同で行っていた活動を、これからどのように統合し精選して、教職員や子どもたちの負担を軽減するかということが大きな課題になっています。

小学生登校も今年は年2回実施の予定ですが、活動自体の見直しが必要です。1小1中で隣接型、地域とも密接な関係にある中で、無理して中学校への小学生登校が必要なのかということや、空き教室が全くない中での実施のため、この部分は今年導入してみて、次年度どのように行っていくかは検討事項として話し合いが進んでいます。

西部地区は、地域密着型と小中一貫教育が切り離せない状況になっていますので、それらを分けて考えることはできないのですが、今の状況は理想の形だと考えています。地域も巻き込んでの活動なので、色々なことがスムーズに進んでいきます。

これからは、その膨れ上がってしまった活動をどうスリム化して、その中身をうまく上手に教育課程に盛り込んでいくかということです。先生方もそうですが、やはり子どもたちが一番忙しいので、その忙しさと慌ただしさをスリム化して整理していくということが課題だと考えています。

最後に、私が北広島に赴任しての感想になってしまうかもしれませんが、私が来た7年前、コミュニティ・スクールを立ち上げる、ユネスコスクールを受けるなど、色々なことを西部地区は試しています。それを、当時の管理職の先生を中心に教職員、生徒も巻き込んで、色々なことを形にしていくことを私は目の当たりにして学んできました。

そして今度は小中一貫教育が始まり、ICTが入り、校務支援システムが入って、とにかく絶え間なく色々なことが降りかかってきて、大変なときもあるので

上野市長
松本委員

すが、それでも今、自分の立場が変わって外部の会議に出るきっかけが増えたとき、他市町村の活動やその設備などと、今自分が行っている中身を比較すると、北広島市が実践している教育活動やICTの充実度はどの市町村よりも進んでいるということを実感しています。さらに、今回視察に参加させてもらうことで、富田課長や佐藤次長など、市教委の方との接点も持たせてもらい、私自身、また新しい角度で教育を見直すきっかけもできました。

北広島市で働かせてもらって色々な経験を積ませてもらっていることに非常に感謝しています。北広島市が教育に力を注いでいることを、私はもっと自分の同僚に伝えて、皆で色々な教育を形にしたいと思いました。

以上です。

富田課長、遠山先生、阿部先生、ありがとうございました。

委員の皆様方から、何かご意見等がありましたら発言願いたいと思います。

まず、先ほどの報告について質問させていただいてよろしいでしょうか。

富田課長

箕面市の事例の中の成果の最後にも書いてありましたが、地域コミュニティとの連携について、ニュータウンのために地域の学校協力体制を共同で整備したという説明がありましたが、具体的にはここはどういうことを行っているのでしょうか。

また、前段では公立的ながらも私立のようなユニークで、あるいは加配にしても積極的に対応しているようでしたが、後段では、色々も行っているが、かなり先生方の負担であるというイメージで受け止めました。この後段について、教育委員会からの加配を含めた人的な措置など工夫はどの程度行っているのでしょうか。

松本委員

まず、箕面市の地域コミュニティですが、もともと山の中の何もいないところを切り開いてつくったニュータウンで、人が誰もいないところに対して、人も張り付き学校もできたというような状態で、隣同士のつき合いなどのコミュニティがもともと存在していなかったところでは、町内会もそのときに立ち上げになって、老人会や子ども会ができたというような状況で、そこに学校が刺さりこんで行って何とか学校に地域の方を巻き込んでいけるような仕組みを学校側からも仕掛けてつくっていました。

後段の吹田市の加配の状況ですが、基本的にその小中一貫教育に関連した加配というのは、ここは挙げてはいません。少人数教育もしており、その部分については加配があるようです。ただ、どちらの学校もそうですが、教育委員会の体制がかなり手厚いです。指導主事が1中学校あたり2人程います。そこでは、もともと学校の先生だった方が6、7年してから指導主事に入って、また学校に戻るというのを繰り返しているような状況があるようです。

今回お話を伺った桃山台小学校の校長先生は、以前、吹田市の教育委員会で小中一貫教育の立ち上げを担当していたという話をしていました。

今回の報告を受けて、イメージが更に深まりました。北広島市の学力テストの

結果について、平均的な点数ではありますが、もう少し立ち入って考えると、二極化しているとの報告がありました。特に小学校の中学年から高学年くらいから厳しい状態になっていくことについて放っておけないと思っています。

小中一貫教育をなぜやるのか、ポイントを三つ考えています。主たる戦力的な部分として、学力が厳しくなっており、共通で取り組むことによって、学力の底上げとをしてほしいということが1点です。

また、この小中一貫というのは中1ギャップの解消から始まっているはずですから、北広島においても、不登校で別のところに通わざるを得ないという児童生徒もいることから、小中一貫によって、学校に通えなくなるという状況がどの程度改善されたかということが二つ目の大事なポイントだと思います。

また、キャリア教育に力を入れていますが、子ども一人一人が、それぞれ多様な評価尺度の中で、必ずこの世の中で生きるべき道はあるのですが、なかなかそうは思えません。もしかすると、15歳の春にそういう側面がありはしないかということがあり、15歳の春に明日の自分が楽しみになるような感じを、小中一貫の教育を期待したいと思います。

上野市長
大山委員

先生方のお話を承って、期待できると思いました。小中一貫の評価を誰がどういうふうにするかということに関して、今から我々が検討し、工夫しておく必要があると思います。何を、どう誰が、どんな観点でやるかについて勉強になりました。

もう一つは、どうしても最初から100%を狙うと、教諭から非常に大変だという意見ばかりが出てくると思いますので、ほどほどのところでスタートして、現場の事情に応じて徐々に良いものをつくっていくというくらいの感じで取りかかる必要があると思います。その場合に必要な人・もの・金を受け止めながらともに考えていくことが大事だと改めて思いました。

大山委員、何かご意見ございますか。

今回の視察以降の報告を受けて、参考になりました。ありがとうございます。

どちらもやはり地域への理解、保護者の理解というところで努力されているのだろうというのは感じておりまして、それをなくしては小中一貫もなかなか難しいのと思います。

1校目のところは、最初から小中一貫教育という感じで新しい学校をつくっていたので、地域の方もそういう学校なのだと分かるでしょうが、2校目のところでは、小学校と中学校ですので、なかなか難しいところもあると思います。その中で、やはり進めていくには地域、保護者の理解も必要でしょうし、そこで理解が得られて、小中一貫教育はいいとなると先生方もやる気が出てくるのではないかと思います。

西部中学校区は、隣接しているので小中一貫を行いやすい環境だと思います。実際成果も上がっていることから、小中との連携は非常に必要だというのは、もう明らかですが、市内には小学校が2校だったり離れていたりという校区もある

上野市長
成田委員

ので、そこで進めていくには、この桃山台と竹見小学校、竹見台中学校が参考になると思います。その中で一つ例を挙げると、今、北広島市でバイオマスタウン構想を積極的に進めています。市からの宣伝効果と市外からの情報によって、住んでいる人たち、地域の人たちはバイオマスタウン構想を行っているのだとよくわかって一緒に盛り上がっていきこうという気持ちになりますが、小中一貫教育の場合は、なかなか学校側からの発信がなければ、うまく地域の人たちには浸透していかないと思いますので、市からの情報発信のほかに、メディアからも情報発信してもらえるような工夫が必要だと思います。また、金曜日登校ですが、年21回中学校に直接登校するというところで、小学校から中学校に移動するのは第一条件、直接中学校に登校するという面では、日常のスクールバスなども利用しながらやっていけばうまくいくのではないかとということと、スクールバスをスクールバスだけで終わらないで、地域のお年寄りの方と一緒に乗せてあげるだとか、色々な使い方ができるとより浸透するきっかけにもなると思いました。

また、小学校の先生が部活動の手伝いをするというところで、中学校の部活動のお子さんを持つ保護者の方々は、先生とも親密になったり、生徒の部活動の応援に行ったりする中で、小学校の先生も部活の先生をやるということになると、より小学校と中学校の様子がよく見えるでしょうし、地域への発信にもなると思います。色々な工夫をしなければならぬ点があるかと思うので、先生方と保護者と地域の方々が少しでも小中一貫教育に関して、行っているのだとわかって、市外にも北広島市では小中一貫教育を行っているのだと住民一人一人が言えるような、そういう仕掛けや工夫などがあればいいと思いました。

以上です。

成田委員、何かご意見ございますか。

今回のこの視察のことで説明を受けて、非常にイメージが湧いて、より分かりやすくなったと思います。

特徴的な取組として、英語に力を入れスカイプを使った授業や、留学生を活用することも、参考にできそうだと思います。簡単にできそうなどころはすぐに取り入れて、北広島でも行っていけばいいのではないかと思います。先生方の話を聞くと、やはり先生方の負担感が大きいことも課題として考えられます。

私は、学校現場にいる人間ではないので、いいと思うことはどんどんやればよいと思ってしまいますが、先生方がどうしたらもう少し楽に、負担を感じずにできるかということも考えていかなければいけないと思います。先生方の負担が大きくなることは、私もイメージできていたのですが、先ほど阿部先生がおっしゃっていた子どもたちも忙しいという部分に関しては余り考えてはいませんでした。確かに今の子どもたちを見ていると、私たちが子どものころに比べて授業や塾、習いごとが忙しく非常に大変そうだなと感じていたところなので、子どもたちの負担にならないようにという部分も考えていけたらと思います。

上野市長
石上委員

また、先ほど大山委員も言っていましたが、小学校の先生が部活の顧問などを

上野市長
吉田教育長

することもいいと思いました。実際に中学校の先生が少年団を指導することよく聞くのですが、逆はあまり聞かないので、中学校で顧問がいなくて部活できない子たちというのも非常に多くいるというのも聞きますし、その解消になればいいのではないかと思います。

以上です。

石上委員、何かご意見ございますか。

この取組で、各中学校区に分かれて小中一貫の取組をしているのですが、今お話を伺いまして、やはり大曲地区は小学校が二つあって距離的にも離れているという問題点があると思いました。私も大曲地区に住んでいるため、難しいというのは分かっていたのですが、西部地区のお話を聞いて、かえって膨れ上がっている行事をスリム化させることに取り組まなければならないというお話が印象的でした。

やはり、中学校区によって取り組み方が違うということを感じました。

また、今回の視察で、4-3-2制を取っている箕面市の学校や、5-2-2制を取っている吹田市などを見て、大卒については市全体で取り組んでいかなければならないことだと思いました。小中一貫教育をすることによって、私が保護者だったころにも小学校と中学校は話し合いができていいのか、中学校の先生と小学校の先生はコミュニケーションがうまくいっていないのではないかなと思う場面も時々あったので、このように一緒に力を合わせて子どもを育てていくという取組は、間違いなく子どものためになると思いました。

教育長、何かご意見ございますか。

今回は、施設一体型と分離型で事例も少し詳しく聞いてきていただいたと思っています。施設一体型であれば、将来的に北広島でもモデルとして行うことができればいいと思いましたし、分離型であっても、委員さん方がお話されたような視点を整理していけば十分できるのではないかと思います。

松本委員がおっしゃっていたように、教育課程を系統的に9年間でどうつくるかはやはり命になると思います。それが学力向上であったり、体力であったり、強いていえば不登校も含めた生徒指導も一貫したものになっていくことによって、子どもたちの成長保障には大きく繋がるだろうと思います。

また、小中一貫教育の取組がある程度落ち着いてくると、小学校であった生徒指導、それが起因で不登校になっているという事例があるとしたら、小学校と中学校との連携ができていれば、最初の働きかけ方を間違わないで中学校にうまくつながっていくといった例が幾つか出てくると思います。学力であっても生徒指導であっても子どもにとってもいいことですし、学校の現場にとってもプラスに働く可能性が高いのではないかと思います。

また、もう一つ、現場事情に応じた取組をとというお話があったのですが、現時点でも、中学校区単位で工夫しています。例えば、カリキュラムは皆つくりましようとか、キャリア教育のカリキュラム全体計画は必ずつくりましようなど、ベ

ースのところは揃えるのですが、近さの問題、また1小1中という条件もありますが、同じいい取組であっても、市内での中学校区の現状の中でできるものとはできないものがありますので、一律、教育委員会で実施しますと言わないほうがいいものもある。

上野市長

また、乗り入れ授業とか先生方が行ったり来たりというのは、これも中学校区によって、やらなくていいということではなく、先ほど言った教職員が理解を共有していたり、石上委員がおっしゃったように小と中の先生がバラバラであることを解消することが子どもに効果的だということも含めて、乗り入れ授業はA地区では年間20回できるが、B地区では距離が離れていて10回くらいとか、教科が1教科できるがこちらは3教科できるとか、濃淡の違いは認めて、その学校エリアの条件を十分考慮して進めていくことも大事だと思います。

また、大山委員がおっしゃってくれましたが、戦略的に情報発信をする必要があると思います。学校と教育委員会だけ発信していても、十分だとは思えません。第三者から言ってもらうとか、あるいは報道機関等の力も借りて発信をしていくことによって、まちのアピールにもなりますし、また学校現場の活性化にも繋がると思います。

つまり、教育課程と中学校区単位での柔軟な取組の構成、戦略的な発信。それらが相俟って、地域への理解づくりができてくるのかなと思いますので、この視察で得た感想等を皆さんで共有し、今後の展開に役立てていきたいと思っています。

富田課長
松本委員

両学校の取組が非常に進んでいるのではないかと思います。来年4月1日から全校区で実施するというので、これは大丈夫だと思いますが、先生の異動は必ずあります。遠山先生や阿部さんが最後まで残ってくれたら、最高の小中一貫になると考えております。

佐藤次長
吉田教育長
佐藤次長
吉田教育長
富田課長
吉田教育長
佐藤次長

松本委員が言いましたように、スタートから余り急がないほうがいいかなと思います。私は、小中の段差がほとんどなくなっていじめがない、対人ストレスが少ない、中学校になって不登校がないというふうになれば非常にいいかと思えます。やはり急がないでいくのが大事ではないかと思っておりますが、今、先生の話聞いて大変安心しました。

全道で学校区を全部やるというのは北広島市がスタートでして、おそらく他のまちも注目していると思いますので、そういう意味で余り肩肘張らないで、この部分から進めるというほうが成功するのではないかとお話を聞いて思いました。

箕面市では全校区で小中一貫教育をやっているのですか。

松本委員

箕面市では一体型一貫校が2校、それ以外は分離型の一貫校になっています。大阪の教育業界はなかなか大変で色々やっているというイメージがありますが、全体としてはどうでしたか。

富田課長

今回視察したところはかなり高いところだと思います。

箕面市か吹田市のどちらかは特区を申請していたのではないですか。

箕面市は申請しています。

上野市長 教職員の異動についてはどうなっていますか。
佐藤次長 ここは府の負担になっておりまして、基本的には市内の異動になっています。
東広島市とか呉市あたりもみんなそうなのではないでしょうか。

吉田教育長 何人かは市外に出ることもありますが、極めて少ないです。メリットとしては、ある程度小中一貫を理解している人たちが異動するということになります。ただ、学校区によって取り組む中身が違っているので、経緯などを説明しなければなりません。

上野市長 やはり低学力とかいろいろな厳しい条件とかをなるべく置いてきたくないって
吉田教育長 いうのか、そう考えるときに特別支援学級については小中一貫教育の場合どう
でしたか。また、今後北広島市ではどのようにしていくと考えていますか。

上野市長 箕面市では相当重いお子さんも同じ学級で、本市でしたら特別支援学校の方
吉田教育長 にいかれる方でも、同じ学校で授業を受けて、学級にも入る合同の授業があり、
印象的でした。

上野市長 石狩管内で小中一貫教育に関して理解している先生は相当いますか。
上野市長 小中連携の意義というのは、以前に比べて先生たち中でかなり理解が進んで
きていると思います。北広島市の先生方は実際やっているのでイメージはつく
のですが、他市町村でやっていなければイメージがなかなか難しいと思います。

上野市長 小中連携が大事だとは指導要領に出ています。小中一貫教育というのは最近
上野市長 法整備がされて、義務教育学校とか小中一貫型の学校とかを作ってよいとなっ
てきましたので、小中一貫教育となると理解度はなかなかまだだと思われま
す。あと当別町が指定を受けています。ですから、人数的には足しても500人いな
い。管2, 500人くらい先生がいますから、2割程度でしょうか。

国は小中一貫を推奨しているのでしょうか。
法律を整備して、学校種の中に義務教育学校と小中一貫型学校を入れ、推奨し
ています。

そのほか、委員の皆様何かありますか。
(「なし」の声あり)
来年4月からになりますので一つよろしく願いいたします。

◎日程第3 その他

委員の皆様、事務局、そのほかありませんか。
(「なし」の声あり)

平成29年度の総合教育会議ですが、今後、緊急的なことがありましたら会議
を行います。年に2回程度を予定しております。次回につきましては、事前に
皆さんにご連絡をして会議を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく
お願いいたします。

それでは、議題は終わりましたので、これで平成29年第1回総合教育会議を閉会したいと思います。

本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

終了時間16時30分